九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

舞台芸術における制作者側と聴衆のコミュニケーションに関する研究

志村，聖子

https://doi.org/10.15017/1441245

出版情報：九州大学，2013，博士（芸術工学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名：志村　聖子　　（様式３）
論文題名：舞台芸術における制作者側と聴衆のコミュニケーションに関する研究
区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

本研究においては、舞台芸術を取り巻く厳しい競争的環境や動員数の低迷といった現状に照らし、「舞台芸術でなければ実現できない価値を多くの人々にどのように伝えていくか」という課題に対して、「制作者側」と「聴衆」を結ぶ「ディストリビューション（伝達･供給）」の役割に着目した上で、欧米において発展してきたアートマーケティング理論における「聴衆」概念をめぐる議論を整理することによって、ディストリビューションのあり方に関する理論的基盤を構築するとともに（第1章）、実際の舞台芸術のマネジメントにおいて、「舞台芸術でなければ実現できない価値」を聴衆にディストリビュートしていくための具体的なしくみの構築について実例を基にした実践的検証を行い（第2章）、さらに、より抜本的かつ政策的に舞台芸術のディストリビュートに関わる人材育成を行っていく必要性に鑑み、大学等教育機関と公立文化施設の連携によるアートマネジメント人材育成に関する体制構築について実例を基にした実証的分析を行った（第3章）。

第１章では、舞台芸術におけるディストリビューションを行うにあたって拠り所となる理論的基盤を、欧米における1970年代以降のアートマーケティング理論の展開と「聴衆」との関係構築に関わる論点を辿りながら探求し、舞台芸術を支えるシステムのあり方を総括した。その結果、価値観が多様化し、芸術の価値判断も一様ではない現代においては、「芸術的価値」とは、作品に内在する潜在的価値が聴衆によって「受容される」ことそのものに見出されると考えるべきであること、すなわち芸術的価値とは究極的には聴衆の「アーティスティック・エクスペリエンス」によって実現されるものであり、舞台芸術におけるディストリビューションの目的も、聴衆の「アーティスティック・エクスペリエンス」の実現に向けられる必要があることを明らかにした。

第２章では、第１章で明らかにした舞台芸術におけるディストリビューションの究極目的すなわち聴衆の「アーティスティック・エクスペリエンス」の実現に向けて、いかなる体制を構築しうるかを論考した。日本の舞台芸術において市民参加の重要性が増しているが、ディストリビューションの主体が「市民」である場合には、「質の確保」（制作者・演奏家側の要請）と「聴衆の満足」（聴衆側の要請）という二つの要請に加えて、「ボランティアの積極的な参加の確保」（ディストリビューション側の要請）という要請をも満足させて初めて持続可能なものとなる。このような三者の要請をいかなる体制構築によって実現させうるのかという課題について、ボランティアの運営によって長期に渡って継続している音楽祭の実例すなわち福岡古楽音楽祭を取り上げながら論考した。延べ５年間に渡る参与調査の結果、福岡古楽音楽祭では、「古楽を愛する心において、プロもアマもない」（十八世紀音楽祭協会会長）というスタンスのもと、音楽祭のミッションである「三本柱」（一流の演奏家によるコンサート、アマチュアの発表の場、プロとアマの交流の場）に基づいて、古楽セミナーや講演会、交歓パーティ等のプログラムを堅持しており、これらの準備業務に携わることで得られる「人々との交流」や「質の高い音楽祭に関わっている満足感」がボランティアにとり大きなアウトカムになっていることが分かった。かかるアウトカムに動機づけられたボランティアの積極的な参加は「アーティストの居心地の良さ」や「会場の雰囲気の良さ」を醸成し、ひいては聴衆の「作品や演奏家に対する結びつき感」や「会場全体の一体感」という「アーティスティック･エクスペリエンス」を実現させていることが意識調査からも判明した。本事例は、市民が舞台芸術におけるディストリビューターの場合にも聴衆のアーティスティ

ック・エクスペリエンスを実現させうるのであり、そのための体制構築が可能であることを示すものである。

第3章では、舞台芸術における制作者側と聴衆のコミュニケーションを担う人材を抜本的かつ政策的に育成していく必要性の観点から、アートマネジメント人材育成に関する国の施策を概観し、具体的なモデルケースが示されていない現状を指摘した上で、大学等教育機関と公立文化施設の連携による人材育成のための体制構築のあり方を論考した。具体例として、九州大学とアクロス福岡の連携による“Music Factory”を示し、アクロス福岡でのインターンシップや企画会議、研究室における活動、大学における総括等の複数の活動主体から成る体制を組織することによって、学生がより実践的かつ継続的に活動できる体制をつくりあげ、それによって教育の深化とコミュニケーション能力等を培う機会を実現できるシステムを構築しうることを示した。

以上を通して、本研究においては、舞台芸術におけるディストリビューションの役割に関する理論的基盤構築及び具体的な人的体制構築に関する実践的検証を行うことにより、舞台芸術の価値が社会において発揮され、強固な基盤が形成されることに寄与することを目指すものである。